

⑦株式会社モス山形 〈山形県山形市〉

コケ植物活用で広がる緑化と温暖化対策 酒屋から環境ビジネスへの新規参入



屋上に敷き詰められたコケボードは直射日光による室温の上昇を抑制する

コケ緑化の強みと効果

山形県山形市に本社を構える（株）モス山形は、コケ緑化資材の国内シェア 95%を占めるコケ緑化のトップ企業である。1997 年の京都議定書を受けて盛り上がった緑化ビジネスだが、一部の企業を除いて衰退し、現在は全部で 200 社くらいが取り扱っている。

緑化資材は、芝によるものが多いが、同社はコケの持つ可能性にいち早く気づき、コケによる緑化を進めている。一般的な屋上緑化資材は 30kg/m² 以上あるため、既設の屋上への設置が物理的に出来ないケースがある。それに比べ同社のコケ緑化資材は強化発

泡スチロールにコケを載せてネットほうせいで縫製したもので重量が軽く、これまで緑化が難しかった場所での緑化を可能にした。既存の建物は、重量やスペースなどの緑化制限の問題がある上に、緑化し易いスペースは既に緑化されていることも少なくない。それでも緑地を確保しなければならない場合には当然、壁や屋根、屋上などを緑地とすることが有効となるが、種子植物の場合には土を入れなければ育たないため重量の問題が生じる。

また、日射環境の厳しい屋上などでは、1 週間以上炎天下でさらされ、水が枯れると全滅するなど

水管理が厳しいといった課題もある。反面、コケは土が不要なため重量による設置制限が低く、乾燥にも強く枯れないといったメリットがある。さらに防音効果や輻射熱の低減など、副次的な効果も確認されており、緑地の確保が深刻な東京都内の事業所を中心に引き合いを増やしている。

酒屋からの新規参入

（株）モス山形の山本社長は、もともと酒屋を経営していた。業界の自由化による競争激化を受け、新しいビジネスを模索していたところ、現在のコケ緑化資材のビジネスにチャンスを見出した。

コケは種子植物と異なり少しずつ増えるので、生産量を伸ばすことが難しい。育成には広大な敷地と通常 5 年程度の年月を費やすため、同社のように強い信念とビジョンがなければ業界での生き残りは難しいのが現状だろう。コケを資材に固定化する技術は、ゼネコンや繊維メーカーの協力を得て開発し、特許を取得した。こうして蓄積してきたコケの育成ノウハウが業界関係者からは一目を置かれており、今では造園用のコケを

除く国内のほぼ全てのコケ緑化資材メーカーからコケ製造を OEM で受注するほどの企業となった。

さらに、出来上がった製品の流通にも一工夫をしている。環境負荷の低減に積極的な建物オーナーや工場所有メーカーなどからの直接注文が多いが、一方で環境負荷低減の意識はありつつも具体的な行動に結びついていない事業者や個人などは、同社の潜在顧客となる。こうした顧客は営業から受注までの時間を要するため、販売代理店を通じて中長期の営業フォローを行う。大手商社よりも地域の中小規模の販売代理店との関係構築を重視しており、地域密着型の営業フォローが可能な体制を構築している。

また、大衆向けの環境関連展示会よりも経営者の参加率が高い専門的な展示会に選択的に出展し、経営者との関係構築を進めている。

成功のポイントとこれから

同社の成功ポイントとして最も大きいものは、酒屋から環境事業への新規参入における先見の明と、事業を貫く強い信念、そして事業関係者との関係構築を進めることによる事業推進力の高さといえるであろう。特に、事業関係者との関係構築においては、販売代理店にある程度取扱いを任せ、結果を出した店を販売代理店とし



管理の難しい壁面の緑化にも問題なく使える



軽量で管理が簡単のため、さまざまなフィールドの緑化を可能とする

ているほか、コケ資材の特徴を活かし、塗料や吹き付け技術の開発などさまざまな企業とのコラボレーションに向けた動きを進めている。

現在は、中近東やアメリカ在住の日本人、中国政府などから栽培技術に関する高い関心が寄せられており、今後の活躍が期待される。

<環境ビジネスのすすめ ～山本正幸代表取締役からの一言～>

中山間地域の耕作放棄農地を活用してのコケ植物栽培は、自然の環境の保全と集落機能の維持と発展に寄与し、雇用を創出しています。また、大企業が生産活動を支援する『一社 一村運動』を提案していきたいです。

<企業データ>

株式会社モス山形
所在地：山形県山形市松見町 20-10
設立：1991年、資本金：3,250万円
電話番号：023-666-6605
<http://www.mos-yamagata.com/index.html>

